

民生委員・児童委員の活動を発信!!

Well うエル おおさか

Vol. **52**
2025
winter
2月



金山古墳公園



近つ飛鳥博物館



弘川寺(ひろかわでら)



道の駅かなん

写真提供 河南町

特集

- ①災害に備える民生委員・児童委員 及び民児協としての取り組み
- ②福祉と共生のまちづくり研修会の報告
- ③「子どもさわやか賞」の取り組みを紹介

◎イキイキハツラツ
民生委員・児童委員さん
河南町民生委員児童委員協議会

民児協だより
高槻市民児協／守口市民児協
千早赤阪村民児協／田尻町民児協

読者プレゼント



詳細は、
P14を
みてね!



さをり織りバック&ポーチセット **4名様**

及び 民児協としての取り組み

◆災害が身近な存在

大阪府南東部に位置する河内長野市は、急傾斜地が多い地形から、台風などでの大雨が降ると土砂崩れが起きたり、大寒波襲来の際も雪や道路の路面凍結から通行止めになったりと、災害は身近な存在となっています。特に、平成30年に発生した台風21号では、停電の発生や国道が3ヶ月間通行止めになるなど、大きな影響を受け、民児協として災害時にどのように備えるのかを考える大きなきっかけとなりました。

民児協の会長、副会長をはじめ、災害対応の経験がある委員らによる「防災に備えるプロジェクト会議」を発足し、令和元年5月から令和4年1月の間、計7回会議を開催しました。災害時の体制づくり等の検討を行い、現在の災害に備えるための基盤となるものを構築しました。

◆河内長野市民生委員児童委員協議会 災害時の行動指針 ①

身近にある災害に備えるため、全民児連が示す災害に備える民生委員・児童委員活動10か条の河内長野市版として行動指針を作成し、災害時に民生委員個人として、どのように行動するかを民児協として示しました。また定期的に見直しを行うようにしています。

◆発災時連絡体制 ②

連絡体制を図式化してわかりやすくすることで、速やかに連絡・共有ができるように整え、災害ボランティアセンターへも民生委員・児童委員(以下、民生委員)から直接連絡することも可能となりました。各地区においてもLINEのグループ機能を使って連絡体制を整備し、普段から連絡手段として運用しています。

◆被災状況把握シート ③

民生委員の被災状況や活動状況を共有できるよう項目ごとに被災状況を記載できるものを整え、地区委員からの被災状況の報告が地区委員長を通じて事務局に入るようになっています。上記①～③を3点セットにして民生委員へ災害に備えることを周知しています。

災害時の行動指針、発災時連絡体制、被災状況把握シートを3点セットにして民生委員に周知しています



河内長野市



前列左から安田 宗義副会長、吉田 妙子会長、奥開 康司部長
後列左から事務局 井口 裕美係長、好川 修平さん

◆命を守る「伝書箱」の周知

災害時の避難行動要支援者名簿登録の際、民生委員が登録者宅を訪問し、「伝書箱」を届けています。

災害発生時、救護に来た警察や救急隊などが避難行動要支援者宅に駆けつけた際、救護や親族への連絡のために情報をいち早く正しく得るためのもので、冷蔵庫の中に入れておくことで、紛失や破損することなく情報共有できるようになっています。



避難行動要支援者名簿登録の際、民生委員が登録者宅に届けている「伝書箱」

◆新しい担い手とともに

「自分たちの組織、自分たちでできることは自分たちで動く。ただし、単独で動くのはやめましょう」と声掛けしながら手間を惜しまず、全員が当事者意識をもち、我が事としてみんなで助け合っています。

今後の目標としては、今年度民児協として実施できなかった880万人訓練の実現と今年12月に控える一斉改選にむけ、担い手の確保と新しく活動される方への丁寧な伝達を心がけ、より充実した活動にしていきたいと考えています。

◆ これまで災害が少なかった地域でも、いざという時の備えを

大阪狭山市は、日本最古のため池である「狭山池」を有する水と緑が豊かなまちです。市内を流れる西除川^{にしよけがわ}の土砂災害が懸念されるものの、津波の心配もなくこれまで比較的災害が少なかった地域です。

しかし、役員が令和5年度福祉と共生のまちづくり研修会に参加した際、災害に備えることへの重要性を痛感。南海トラフ地震がいつ発生するかわからない状況下で、発災時に迅速な対応ができるのかとの危機感から、民児協として体制づくりの必要性を感じ、ワーキングチームを立ち上げました。

◆ 災害に備えるハンドブック

現在、災害に備える活動指針として「災害に備えるハンドブック」の作成に取り組んでいます。ワーキングチームを中心に今年度完成に向けて検討を重ね、たたき台が完成しました。

民生委員・児童委員（以下、民生委員）からの期待の声も多く、具体的な備えについてや、不安を抱える地域の方々にどのようなことを伝えればよいか、情報をまとめてほしいという要望もあります。ハンドブックの活用により、民生委員の共通の認識が深まり体制が強化されると、必要な人に適切な支援ができるものになります。充実した内容とするため、今後もワーキングチームで検討を重ねる予定です。

たたき台が完成したハンドブック



要支援者名簿などを保管するファイル。民児協として統一した個人情報の管理をしています



◆ 自助の大切さを伝える

平時からの取り組みとして、自分の身は自分で守る。民生委員もすぐには駆けつけられないことを、日ごろから地域の方々に伝えながら、自助の啓発を行っています。地域の民生委員は担当地域に何十人もの要支援者を抱えており、全ての世帯を訪問するにはかなりの時間を要します。

民生委員と地域の方との信頼関係の構築はもちろんのこと、以前の隣組のように、まずは自助、共助で命を守るという意識を持ち、普段から近隣宅の洗濯物やゴミ出しの様子などを気にかけて、お互いに安否の確認を行えるような関係づくりを整えることも重要だと考えています。

大阪狭山市



左から都築 正男副会長、辻 八重子会長、横山 まゆみ副会長、柏村 康輔さん、辻村 隆史さん
上記以外の大阪狭山市民児協ワーキングチームメンバー
佐野 貴徳さん、疋田 正信さん、中井 利幸さん

◆ 民生委員活動は自身の安全が確保されてから

地区委員長と地区の民生委員はLINEでグループを作成し、連絡を取っています。LINEをされない方にはショートメールを利用するなど連絡体制を整えています。災害時に通信障害でLINE等が使えない時は、復旧するまで待つてから活動するなど、二次災害を起こさないよう訴えています。民生委員は真面目な方が多く、まずは自分の身を守ること、自身の安全が確保されてから地域の方々への支援にあたるようにハンドブックにおいても強調し伝えています。

また、要支援者名簿などの重要な書類を民児協で統一して緑色のファイルに入れて保管しています。有事の際、一目で見つけられ持ち出すことが可能となり、迅速な対応や情報共有ができるよう工夫をしています。

◆ 大阪狭山市として災害に備えるために

災害に備える体制づくりを進める中で、大阪狭山市全体で取り組むとなると、行政や関係機関との連携が必要であることを実感します。情報の共有や役割分担などに難しさはあるものの、差し迫っている災害に、まずはハンドブックの作成をはじめ、民児協ができることに取り組みながら、行政や各関係機関と協働し災害に備える体制づくりをめざしています。

令和6年度「福祉と共生のまちづくり研修会」開催 — 災害に備える民生委員・児童委員及び民児協としての取り組み —

11月7日、大阪府民生委員児童委員協議会連合会地域福祉部会主催の「福祉と共生のまちづくり研修会」を大阪国際交流センターで開催しました。

近年、頻発・激甚化する自然災害に対応するために、地域での防災力を高めることが求められています。災害への備えは、日頃の民生委員児童委員活動の延長線上にあることを意識し、「災害に強い地域づくり」を進めていくことが重要です。

今回、講師に一般社団法人FEEL Do(フィールド)代表理事 栗原 英文氏をむかえ、「災害に備える地域ぐるみの防災・減災の取り組みと民生委員・児童委員」をテーマに、災害時の民児協の機能や役割について講演が行われました。



一般社団法人FEEL Do
代表理事 栗原 英文氏

能登半島地震やこれまでの被災地からの教訓

令和6年、元日に能登半島地震が発生しました。大阪でも平成30年大阪府北部地震、令和元年には台風19号と、多くの被害が生じました。被災地の民児協では様々な問題が起こっています。日頃からどんな備えをしておけばよいか、被災地で起こったことを教訓に備えておくことが大切です。

委員同士の安否確認や連絡方法・ルートなど不明確な場合のために連絡網以外にも、通信が途絶えた時に連絡する手段を決めておくことで、委員の安否確認ができます。また、「新任の委員の使命感や責任感が強く、単独行動をした」という問題もありました。ルールがなければ、単独行動をしてしまいます。そして、「自身の安全第一と行動の共通認識」が課題となりました。

能登半島地震では、会長や何人もの委員と連絡がとれない事態となり、総会や定例会が開催できなかったそうです。また、「委員個人の判断で活動せざるを得ず、不安や負担を抱えた」という声も聞かれました。役員等が不在の場合でも、緊急会合が開催できる取り決めをしていたり、役員や事務局と連絡が取れない場合に、個人の活動の進め方や限定化などの方針を決めておくといいでしょう。

行政からの協力要請や、委員では対応できない相談のつなぎ先に苦慮した」という意見もありました。平時から行政をはじめ保険・医療・福祉関係者、消防、警察

などと連携しておくことが大切です。

また、被災される委員も多くいます。「委員自身が二次避難を強いられ様々な負担がある」「就業している委員は支援活動が困難」という問題に対しては、被災した委員の被害の実態把握に基づく支援方法を決めておき、委員活動の負担軽減策について検討しておく必要があります。普段からメンタルやストレスケアへの対応にも取り組んでおくといいでしょう。



何事も普段の民生委員・児童委員活動から

民生委員・児童委員(以下、民生委員)は、「ひと」と接する人として、五感をフルに使って活動することが求められます。「困っている人をほっておけない気持ち」を行動に移せる「人育て」や、人と上手に接することができる「人づくり」も大切です。

民生委員活動では、見たままを信用するのではなく、しっかりと「見る目」が必要です。自分ばかり話をせず、相手の話に「聴く耳」をもち、委員自身が「支える手」となっていることが大事です。「足は素早く」動きたいところ。年齢的に早く走れなくても、気持ちは素早く動き

ましょう。「口は控えめに」、決めつけない「柔らかな脳みそ」を持って、ハッと「気づく心」があることが大切です。「顔はベッピン・にゅうわ」を心がけて、ご挨拶へ行く前に顔の運動をしてから、にこやかに「程よいあいさつ」をしましょう。

日々、仕事されている方や週末に自分の時間を割いて活動されている方もおられます。できるだけ無理をせず、自分の生活を崩さない範囲で、民生委員・児童委員活動を進めていただけたらと思います。

わがまちの取り組み、平時から災害の備えを

栗原氏の講演の後、民児協として災害への備えに取り組んでいる河内長野市・大阪狭山市両民児協の活動を紹介(特集1参照)。河内長野市吉田妙子会長は「山間部のため、いつ土砂崩れがあるかわからない。災害に関して身近な問題として捉えてみんなで活動してい



河内長野市民児協
吉田妙子会長

きたい」、大阪狭山市辻八重子会長は「昨年の研修会をきっかけに作り出したハンドブック。まだまだ手直しをするところや足りないところがたくさんある生まれたての赤ちゃんだが、大きく成長していくように、今年度の完成までに見直していきたい」と災害に対

する思いを語りました。

情報交換会では、事前に配布していた情報交換シートを元に、グループごとに地域で取り組んでいる内容や課題について活発な意見交換が行われ、それぞれの地域の状況を共有することができました。



大阪狭山市民児協
辻八重子会長

研修会の参加者からは、「発災時の行動指針や緊急連絡体制の整備の必要性を感じた」「日ごろからの地域での支え合いの関係づくりが大切であること。その延長線上に災害時があることを再確認した」などの感想が寄せられました。

災害に備える民生委員・児童委員活動10か条のうち、ポイントは 6つ あります。

① 日頃の活動が大切

「いま」と「もしも」を「いつももしも」に。災害時に備えた見守りや計画づくりを行う。

② 安全最優先

自分自身と家族の安全確保を最優先に。「0次から3次」(※1)の備えをしっかりと確保しておく。

③ いつも協働できるつながりを

日頃から、警察や消防、保健、医療、福祉に関する関係者など、人や組織とつながっておく。

④ 被災者や要配慮者に支援を

支援が必要な人に支援を届ける役割を担う。

⑤ 被災後の支援

一人ひとりの命と暮らしを守り、生活再建を支援する。

⑥ 災害時に困らないために

民児協の組織方針を決め、平時から支える体制をしっかりと作る。

(※1) 0次: 自分のための備え、1次: 災害時の持ち出し品の準備、2次: 家庭備蓄、3次: 地区防災

FEEL Do 栗原氏作成

災害にも強い地域をめざしましょう!

普段から暮らしやすい地域づくりをめざすのが民生委員の取り組みのひとつです。災害に備えるには、お互いに普段から気をかけ、支えあっていることが大切。災害時には、支えあいから助け合いへ。日常活動の延長線上で、災害時に弱い立場になりがちな方のそばで助け合える取り組みを考えましょう。

「子どもさわやか賞」は、家庭や学校において積極的な生活を送っている子どもや、自主的に地域活動やボランティア活動等にいきいきと取り組む子どもたちに対して、大阪府民生委員児童委員協議会連合会より表彰しています。

令和6年度 「子どもさわやか賞」の 活動紹介 「海の清掃活動と啓発活動」

主な活動紹介

伊藤凜さんは、幼い頃からご両親と、おもに砂浜の清掃活動を行ってきました。2年前には海の保護を目的とした個人事業「SEE THE SEA」を立ち上げ、海洋ゴミから作られたペンやチャリティーTシャツを販売して啓発活動を行い、全売上利益を海の保護活動に寄付。昨年は能登半島地震被災支援活動へ義援金を送ったり、海外でも啓発活動を行ったりしています。また、月に2回、チャリティーTシャツを着た30人程の仲間と、山や川、公園のゴミ拾いをする活動を続けています。



枚方市 伊藤 凜 さん
(中学2年生)

🌿 海洋プラスチックゴミ問題を知りビーチクリーン活動を開始

ご両親がアウトドア好きで、幼い頃から海や自然に親しんできた凜さん。小学4年生の時、2050年には日本の海の中は魚よりもプラスチックが多くなることを本で読み、「今の海は大丈夫なの?」と心配に。そこから、海の環境問題を学び、大好きな海を守るためにビーチクリーン活動を積極的に行うようになりました。

小学5年生の時、担任の先生に依頼して、授業の1時間を使い、クラスメイトに海洋プラスチックゴミ

について問題提起を行いました。また、給食の時間に4～6年生の教室をまわり、校内に海洋ゴミ問題を認識してもらう活動を行いました。そして、活動に賛同してくれた仲間と一緒に、海を守る「プラゴミレンジャー」を結成。最初は川や公園のゴミ拾い活動からスタートし、現在は小学5年生から中学生までの6人のプラゴミレンジャーと共に、海や山でゴミ拾いをしたり、チャリティー活動を行っています。



海の環境保護について発表



浜辺で集めたプラスチックゴミ



賛同してくれた仲間とゴミ拾い

販売しているグッズの
クリアファイル
イラストは凜さんの
妹さんが制作



イベントで啓発活動&グッズ販売



ミスプリティーン世界大会に出場

世界の仲間から刺激を受けて個人事業主として活躍

凜さんは、小学5年生でミスプリティーンインターナショナルという社会貢献を主軸にした大会に出会い、初代日本グランプリを獲得。翌年、アメリカ・テネシー州で行われた世界大会に日本代表として出場しました。その際、海外から出場する同年代の子どもたちは、自分で本を出版したり、起業したり、活躍していることを知り、凜さん自身も個人事業を立ち上

げたいとの思いから「SEE THE SEA」を設立。妹さんがイラストを描いたチャリティーTシャツや、海洋ゴミから作られたボールペンなどのグッズを販売し、売上を海の環境保護活動を行う団体や個人に寄付しています。そんな凜さんの行動力は、ミスプリティーン世界大会本部のオーナーからも、大変高く評価されました。

仲間とゴミ拾いを行いながら啓発活動を積極的に実施

現在は月2回、プラゴミレンジャーの仲間と自然の中を走るトレイルランニングに参加し、海や山で遊んだ後に清掃活動を行っています。また、ポップアップショップでグッズ販売や啓発活動を行ったり、Instagramやホームページで情報を発信。チャリティーTシャツの売り上げは、総数500枚を突破しました。今後の目標は、新しいグッズを考えたり、小さな子どもたちにも知ってもらえるよう環境問題の絵本を英語と日本語で作ることだそうです。

また、凜さんは国連で社会問題についてスピーチ

した女優のエマ・ワトソンさんに憧れ、将来は自分も世界で活躍する女優になり、国連で海洋問題について発言するという夢があります。

現在は、SEE THE SEAの活動をしながら、英語学習やミュージカルのレッスンにも力を入れており、「将来は海外の大学へ進学して、世界の環境や文化を学びたいです」と話します。

たくさんの仲間が、私の活動に協力してくれることがすごく嬉しいです。
困ったことは、どれだけ拾ってもゴミが減らないこと。マイクロプラスチックを魚が食べて、その魚を大きい魚が食べて、人は1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを食べているそう。そんな海の現状をもっと多くの人に知ってほしいです。



人キキハツッ



民生委員・児童委員さん

●河南町民生委員児童委員協議会●

5年ぶりに開催!子ども達の笑顔あふれる
第11回子どもゆめづくりフェスティバル

河南町民児協では、「子どもゆめづくりフェスティバル」や「ひとり暮らし高齢者等の調査」など民児協独自の事業を展開。誰もが住みよい地域づくりに奮闘する、河南町の民生委員児童委員(以下民生委員)の皆さんの取り組みをご紹介します。

子ども達が一日楽しめるフェス
手作りおもちゃも大人気!

河南町は、大阪府の南東部に位置する、人口約15000人の自然と歴史に恵まれた町。5地区・47名の民生委員児童委員と主任児童委員が活動しています。

河南町民児協では、「民生委員・児童委員の日」のPR活動の一環として、毎年5月に民児協主催の「子どもゆめづくりフェスティバル」を開催。コロナ禍でこの4年間は中止されていましたが、昨年5月11日、河南町ぷくぷくドームにて5年ぶりに盛大に行われました。

当日は無料参加できるイベントで、この日は多くの家族連れが集まりました。広場には蒸気圧で動くミニSLが走り、金魚すくいをはじめ、小麦粉ねんどであそぼう、紙であそぼう、ゲームであそぼうなど、民生委員が手作りで準備した楽しいあそびのコーナーを設置。一番人気はミニSLでしたが、紙であそぼうでは、紙コップで作った糸電話が子ども



達に大人気。民生委員手作りのボールゲームに夢中になって遊ぶ子ども達の姿もありました。

5年ぶりなので初参加の民生委員も多く、準備に戸惑いもありましたが、当日は大人も子どもも楽しめる充実した1日になりました。子ども達の笑顔とともに「楽しかった。また来年もお願いね」という言葉をいただき、今後も継続していきたい活動のひとつです。



地域で孤立させないために
ひとり暮らし高齢者の友愛訪問

河南町民児協では、独自で「ひとり暮らし高齢者等の調査」を行っています。5〜6月頃、ひとり暮らし高齢者の方、高齢者夫婦等、また障がいのある方を訪問。その調査結果から、ひとり暮らし高齢者の方を対象に、10月から2か月ほどかけて「友愛訪問」を実

施しています。地域で孤立させないことを目的に、通常の訪問とは違い、泉州タオルを配りながらゆつくりお話を伺っています。昨年は383本のタオルを配りました。



上段左より 取材に協力していただいた 林政則広報研修部長、谷口正輝河内地区長、浅尾初美石川地区長、奥野富美子会計 下段左より 片本憲一地域福祉部長、吉岡賀子会長、伊藤容子副会長、北口恵津子事業推進部長

47名の民生委員が安否確認を含めて、ひとり暮らし高齢者の方々の近況を伺いました。タオルを持参すると「今年もくれるの、おおきに」と笑顔で喜んでくれる方も多く、顔の見える関係を築きながら、地域の良き相談相手として活動しています。

子ども防犯ポスターの制作・展示

子ども達の防犯意識を高めてもらい、安全安心な町づくりをめざすことを目的に、主任児童委員が中心となって小学校に依頼しているのが、「子ども防犯ポスター」の制作です。河南町には2つの小学校があり、毎年、小学5年生全員がポスターを描いてくれます。各地区の掲示板に2枚ずつ掲示するほか、子どもゆめづくりフェスティバルでも、たくさんの作品を展示しました。

また、こども園との交流も積極的に行っています。秋の「敬老のつどい」では、おじいちゃん、おばあちゃんに参加していない園児の仮のおじいちゃん、おばあちゃんになって、イベントを手伝いました。

河南町民児協では、子どもから高齢者まで、安心して暮らせる町づくりをめざして、日々活動しています。



表紙写真の周辺地図をご紹介します！

金山古墳公園・近つ飛鳥博物館・弘川寺(ひろかわでら)・道の駅かなん

金山古墳は、北丘は2段、南丘は3段、大小二つの円丘を合わせた、国内で唯一確認されている双円墳です。また、西行法師終えんの地として知られる弘川寺など、河南町は自然と歴史に恵まれた緑豊かな文化の町です。



民児協だより

【北摂ブロック】

高槻市



災害時の民生委員・ 児童委員の役割を確認

高槻市民児協は、行政より災害時要援護者支援同意者名簿（以下「同意者名簿」）を受領し、日頃から災害時における要援護者の安否確認に備えています。そして、実際の災害を想定し、スムーズな安否確認報告を行えるよう、平成25年に災害時要援護者支援活動マニュアル（地震災害編）を作成。平成30年6月の大阪北部地震では、同意者名簿や日頃の友愛訪問での取組を生かしながら、いち早く安否確認を行い、ひとり暮らしの高齢者等に寄り添うことができました。



防災研修のようす

しかし、委員自身も被災しながら安否確認をするなかで、いかに自分と家族の安全を確保しながら支援活動を行うかが課題にさがり、これらの経験を補完したマニュアルを令和2年に作成しました。

そして、近い将来発生すると言われていた南海トラフ巨大地震も見据え、プロジェクトチームで何度も協議を重ねて、このたび【総集編】を作成しました。

災害時の民生委員・児童委員の支援活動では、まず自分自身と家族の安全確保が大切です。それができて初めて支援活動を行うことができるという認識のもと災害支援での活動をイメージしています。



プロジェクトチームの座長
土井副会長からマニュアルの説明

このマニュアルは、民生委員・児童委員の役割や連絡体制の確認、地域の様々な団体との連携体制といった平常時の動きを始め、災害が発生した時の安否確認の方法、そして災害復旧時などに復興期の動きについても網羅し、防災意識を高める契機となっています。

高槻市民児協は、防災をテーマにした研修会の開催をはじめ、各地区でも自主的に防災研修を実施し、民児協として防災意識が日々高まっています。

高槻市民児協



【河北ブロック】

守口市



防災グッズ・安否確認タオルの配布のようす

**高齢者防災見守り安心事業
災害に備えたひとり暮らし
高齢者見守り支援事業
（防災グッズ・安否確認タオルの配付）**

守口市民児協は、民生委員児童委員256人が多岐にわたる活動をしています。

近年地震などの災害が相次ぎ、防災に対する関心がより高まっている中、守口市民児協では、市の「高齢者防災見守り安心事業」に協力しています。75歳以上の一人暮らし高齢者のお宅を訪問し、防災グッズを配付する事業で、地域住民の防災意識の向上につなげています。

また、「災害に備えたひとり暮らし高齢者見守り支援事業」として、災害時に無事を知らせる「安否確認用タオル」を高齢者宅等に配付しています。災害時に無事を知らせるサインとなり、救助が必要な人を早く発見するの役に立つようにとの思いが込められています。お渡しした方からは、「黄色に赤い文字が目立っていいなあ」「役に立たんほうがええなあ」という声をいただきました。

今後も民生委員児童委員と地域住民が普段から顔見知りになり、相談しやすい関係づくりを行うとともに、その体制を強化していきます。

守口市民児協



防災グッズ



安否確認タオル

民児協だより

【河南ブロック】

千早赤阪村



機関紙「千早赤阪民児協だより」



おいしくなあれ!!

大阪府の南東部、金剛山の麓にある、府内唯一の村、千早赤阪村。少子高齢化の中で、どのように地域を活性化できるかを考え、主任児童委員を含めて27名で日々活動しています。

千早赤阪村民児協では、「千早赤阪村民児協だより」を年2回発行し、全戸配布しています。広報紙には、村内の作業所やこども園での交流会や管外研修の様子、主任児童委員の活動などを掲載しています。今後も、各事業の活動報告や行事に取り組む姿など民児協の活動をわかりやすくお伝えしていきたいです。

ふれあい交流会を通じて

毎年村内の障がい者作業所とこども園でふれあい交流会を実施しています。それぞれの事業では、実行委員会を立ち上げ、当日までに準備をします。

作業所では、通所者さんと一緒に楽しめたこ焼きを作ったり、通所者さんによる様々な楽器を使った演奏で一緒に合唱をしたりしながら交流会を行います。

こども園では、年2回交流会を実施しています。魚釣りゲームや輪投げ、プラバン作りなどを行い、園児の歌や遊戯も組み合わせるなど工夫しています。また毎年12月には、お餅つきを行います。臼と杵を使ってついたお餅は最高に美味しいです。

今後も、顔の見える関係づくりをめざして、地域との密着した活動をすすめていきます。

千早赤阪村民児協



どれを釣ろうかな



一緒にペタン!ペタン!



お母さんのひざに座って劇を鑑賞



【泉州ブロック】

田 尻 町

田尻町は、関西国際空港の対岸に位置している人口約8千人のコンパクトシティです。

わが町の特性を生かして、私たち民生委員児童委員23名(内、主任児童委員2名)は、地域の皆さんから気軽に声を掛けて頂けるよう日々いろいろな活動をしています。

こどもたちとの交流

こども園で園児と一緒にカレンダー作りをしています。手作りカレンダーは公共施設に配布し、住民の皆さんに見ていただいています。

また、すすくセンター(子育て支援センター)では、主任児童委員が中心となって、毎年演劇を公演しており、昨年度は「おおきなかぶ」を上演しました。

各種団体と連携し登下校の見守り・声かけ活動を行ったり、学期ごとに、こども園・小学校・中学校でありさつ運動を実施したり、保護者や児童と顔の見える関係を築いています。

さらに、小学校4年生の授業で、車いすを押して学校から公共



見守り・声かけ活動



カレンダー作り

施設まで移動する時、安全面のサポートもしています。

高齢者の見守り活動

高齢者の見守り活動として、月1回の友愛訪問を行っています。70歳以上の方へ誕生月にプレゼント(和菓子)を持って、お祝いと安否確認を行っており、節目の年齢に達した高齢者には行政から依頼されたお祝金も届けています。

また、年末には社会福祉協議会と連携してひとり暮らしの高齢者(70歳以上)を対象に希望者を募りおせち料理(有料)の配食も行っています。

これからも町民に寄り添い、みんなで協力して活動を行って行きたいと思っています。

田尻町民児協



誕生月にお祝いをお届け

今回は、泉佐野市民児協の主任児童委員活動について紹介します。

泉佐野市民児協では、13の小学校区に各1名の主任児童委員を配し、小学校と顔の見える信頼関係を築くため、市内の全小中学校を対象に、順次学校訪問をしています。

■ 学校訪問で特色ある教育現場を学ぶ

泉佐野市には、特色ある教育活動を展開し、市内全域から入学できる「特認校」に認定された小学校が3校あります。昨年10月には、定例会を兼ねて、特認校のひとつ「大木小学校」を訪問しました。

大木富士と呼ばれる山のふもとにある大木小学校は、自然環境に恵まれ、様々な体験ができる小学校です。全児童37名、うち地元の児童は6名で、多くの児童が泉佐野市内各所から通学しています。

地域の方の協力のもと、田植えから稲刈りまで携わる米作りをはじめ、川遊びなど豊かな自然に囲まれ

た中での学校生活。また探究的な学びを取り入れ、子どもが自ら学びに興味をもてる環境づくりに注力しています。学校では失敗できるという「安心」、理解できたという「確信」、自分ならできるという「自信」の「3つのしん」を実現できる教育に取り組んでいます。

牧野校長による学校説明の後、各教室や子ども居場所となる校長室を見学。委員からは「子どもたちが自分から挨拶してくれて気持ちよかった」「字もきれいで、一人ひとり目をかけて指導されていると感じた」「子どもが自由に入れる、開かれた



校長室が素晴らしい」といった感想が聞かれ、大木小学校の現状と魅力を知るよい機会となりました。

■ 自然いっぱいの小学校でよりよい学びの環境づくりを

「少人数だからこそできることがある。自然が子どもたちを育む力は大きい。この学校に来て変わった子どもの姿を見てもいい、選択肢のひとつとして、こういう学校があることを知っていただきたい」と話す牧野校長。大木小学校は児童数が減少しており、泉佐野市では特認校への編入学が認められないため、未就学児をもつ子育て家庭への周知という課題もあります。

今回の学校訪問を終えて、「子どもの問題は大人の問題。大人が考えていく環境づくりが大切だと感じて



木造校舎のらせん階段には校章のステンドグラス

いる。居場所の存在が子どもたちの将来を変化させる可能性もある。学校と連携して、未来を担う子どもたちがよりよい環境で育っていけるよう協力したい」と話す主任児童委員連絡会の赤坂代表。

集団生活が苦手な子どもや、自然の中でのびのびとした学びを希望するご家庭への選択肢のひとつとして、広く大木小学校の存在を知ってもらえるよう、子育て部会などを通じてPR活動ができればと考えています。



大木小学校を訪問した、泉佐野市民児協の主任児童委員のみなさん

たくさんの
ご応募お待ちしております！

開所当初から行われている作業の一つが
手織り物の作製。現在は主に、さおり織りと
布を切り替えた、ほっこりするデザインの
バッグやポーチを作っています。外出時の
お供にいかがですか。



さをり織りバック&ポーチセット 4名様

※写真と織りや柄が異なる場合があります。

応募方法

必要事項をもれなくご記載いただき、締切日までにFAX
または本会ホームページの応募フォームからご応募ください。

応募締切 令和7年3月14日(金)午後5時必着

必要事項

- ①氏名(ふりがな)②住所③電話番号
 - ④所属(民生委員・児童委員、関係機関職員、その他)
 - ⑤一言コメント・感想
- (本誌へのご意見・ご要望などお気軽にお寄せください)

宛先

大阪府民生委員児童委員協議会連合会事務局

[FAX] 06-6762-9487

[H P] <https://www.osakafusyakyoku.or.jp/minkyo/>



〈Wellおおさか51号の当選者〉

おめでとうございます！

皆さんご応募ありがとうございました！

八尾市S・K様、高槻市K・Y様、池田市O・R様、東大阪市S・Y様

事務局だより



全民児連では令和6年6月に「令和4年12月の民生委員・児童委員一斉改選結果に関する総括となりて確保のための提案」をとりまとめています。

本提案をふまえ、来年の一斉改選に向けて「新しいなりてが推薦されやすい仕組みづくり」「委員活動を続けやすい環境づくり」のためにできる限りの取り組みを進めていきましょう。

【地方公共団体に取り組みを依頼したいこと】 【各地の民児協に取り組みを依頼したいこと】

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 実情に合った配置基準や選任要件の検討 ② なりて確保への主体的な取り組み ➡ 推薦方法の多様化の検討 ➡ 自治会等の候補者推薦母体への丁寧な説明 ➡ 民生委員活動に関する理解促進のための主体的な取り組み ③ 民生委員の困りごとの相談先の整備 等 | <ol style="list-style-type: none"> ① 委員が活動しやすい環境づくり ② 働きながら活動する委員への理解 ③ 時代の変化や所属委員の状況に合わせた活動の見直し ④ 水平型組織としての単位民児協運営 ⑤ 意見具申の実施 ⑥ 普段の活動のなかでの意識づけ ⑦ やりがいの発信 |
|---|---|

「令和4年12月の民生委員・児童委員一斉改選結果に関する総括となりての確保のための提案」報告書は
全民児連HPに掲載しています。

(5.民生委員・児童委員活動に
関する調査報告書等(PDF)
⇒(10)に掲載)。

URL <https://www2.shakyo.or.jp/zenminjiren/mj/>

スマートフォンのカメラで二次元コードを読み取ってください



民生委員・児童委員が

応援団!!

わがまち

★逸品★

寝屋川市民児協

Vol.16

プレゼントの商品の紹介

社会福祉法人
聖森会

はたのさとみなさん



さをり織りや木製の商品も
販売店『かきのたね』で
購入できます

1991年7月、障がいのある人の働く場として、寝屋川市の第1号認可施設として開所した「はたのさと」。現在、生活介護の利用者が19名、就労継続支援B型の利用者が24名通所する障がい福祉サービス事業所です。ており科・陶芸科・かみすき科・木工科の4つの科目があり、作業を通して、協力する喜びや達成感を感じることを大切にしています。



開所当時から行われているのが「ており」と「陶芸」です。ており科では、

来年の干支の“巳”の陶器のおきものも作成中



さをり織りを制作。利用者さんが織り機を使って、糸や色使いを工夫しながら、個性的で美しいさをり織りを織り上げていきます。利用者さんも日々スキルアップしているそうで、中には二色交差や網代織など、技術を要する作品も。織り上がったさをり織りは、ポーチやカバン、人形、マフラーなどに加工し、販売しています。

陶芸科では、お皿やコップ、箸置き、干支の置物など様々な作品を作っています。利用者さんが行うのは、麺棒を使って粘土を一定の厚さまで薄く伸ばす作業。作るものに合わせて、厚さをミリ単位で調整します。また、当施設の焼き物は、ベースの粘土に色の違う粘土をはめ込む象嵌（ぞうがん）技法を用いた、かわいい水玉模様が特徴。水玉の元となる小さい粘土を利

用者さんがひとつひとつ丁寧に丸め、きれいに並べることで、美しい水玉模様が完成します。



製作物は、施設の隣にあるショップ「かきのたね」で販売。地域の方々に施設の活動を知っていただける場所にもなっています。また、寝屋川市のスーパーやマルシェ、四條畷市のショッピングモールのイベント、寝屋川市役所で行われる障がい者施設の販売会などに出店。販売会への参加は、利用者さんのやる気アップにつながり、皆さんとても楽しみにされているそうです。

また、当施設では、年に一度「おもう、つくる、働く展」という作品展を開催。展示販売のほか、陶芸や機織り体験なども行っています。昨年は市民会館で開催し、地域の方々と接する良い機会となりました。「知的障がいについて誤解している方も多いので、いろんな方に本当の姿を知っていただきたい」と所長の村上卓司さん。今後も社会とつながりをもてる機会を増やしていきたいとお話されていました。



乾 光江さん
(寝屋川市民生委員児童委員協議会 会長)

四半世紀以上にわたり、寝屋川市で障がい者に働く機会をつくってこられたはたのさとさん。通所されているかたが楽しそうに作業をされる姿に感動いたしました。これからもはたのさとさんの活躍を応援いたします。

★お問い合わせ先★

〒572-0848 大阪府寝屋川市秦町29-4
TEL. 072-823-2230

編集後記

2025年の干支は巳年。へびは古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる年といわれています。大正時代から培ってきた民生委員の精神を継承しつつ、巳年を象徴する「新しい挑戦」や「変化」にチャレンジする1年となりますように。

Well おおさか

vol.52
(通巻84号)



発行日:令和7年2月

発行:大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局:大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyo.or.jp/minkyo/>



QRコードから
簡単アクセス